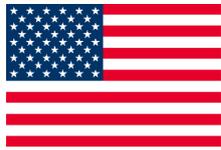


アメリカに行く前は全く想像していなかったカルチャーショックについて

広島大学附属福山高等学校 1年

余村 思織



<http://freesozai.jp>

私がアメリカに行く前に何となく想像していたカルチャーショックは、例えば「家の中は土足」や「湯船につからない」などなどのことですが、実際アメリカに行って、予期しておらず本当に驚いたカルチャーショックについて紹介していきたいと思います。

CULTURE
SHOCK

<http://semi3del.xsrv.jp>

① アメリカの人はとってもフレンドリー！？

アメリカの人は他人に対してもとってもフレンドリー。お店の店員さんとかも「何かお探ですか？」や「お買い物楽しんでますか？」などと声をかけてくれます。また、スーパーなどを含めてどのお店でもレジに行くと「調子はどうですか？」から始まる短いトークがお客さんとの間にあり、他人であったとしても仲がいいなと思いました。



<https://www.pinterest.com>

② 信号が赤でも進むことができる！？

カンザスシティでは16歳の人には運転することができるので、同い年のホストシスターが時々運転してくれました。その時助手席に座らせてもらい「日本はハンドルが右にあるから私が運転しているみたい！」と思って走っていて、2つのことに気が付きました。1つはカンザスシティでは車は右側通行だということ。これは、考えてみれば右側にハンドルがあるので右側走行になる確率が高いということは当たり前なのですが、やはり違和感がありました。2つ目は、赤信号でも安全を確認できれば右折できる、ということです。赤信号なのに車が右折したので、「今赤信号なのに曲がった！？」と聞いてみたら



[http:](http://takeiteasyinamerica.com)

[//takeiteasyinamerica.com](http://takeiteasyinamerica.com)

、「うん、車が来てなかったら右折はできるんだよ。」
と言われてすごく驚きました。

③ アメリカ人の人たちも、家にいるときは靴を脱ぐ!?

外国では室内で靴を脱ぐという習慣があまりないから違和感を覚えるだろうな、と思っていたら、行ってみてびっくり。その逆でした。皆が皆、というわけではないのですが、靴を脱ぐという習慣がありました。そう、でも家の皆が皆靴を脱ぐ、というわけではないのです! 同じ家でもはだしの人もいればソックスの人・スニーカーの人・スリッパの人…とそれぞれ。また子供がたくさんいる家ではみんな玄関ではなくリビングなどで靴を脱ぐのでリビングに普通に靴が転がっていて、靴を脱ぐ習慣こそあるものの、日本のように完全に室内の清潔さを保つため脱ぐ、という感覚ではないのかなと思いました。



<https://ameblo.jp>

④ 1学年の幅が違う!?

アメリカでは新学期が始まるのが9月から。だから日本では3月生まれと4月生まれの人が違う学年になるように、アメリカでは8月生まれの人と9月生まれの人が違う学年になるんです! だから私のホストシスターは私と同年でしたが6月生まれて、クラスメイトのほとんどは1歳年上だ、と言っていてとても驚きました。



[https://lineblog.](https://lineblog)

⑤ みんな日本についてかなり知っている!?

日本人のホームステイを受け入れてくれた人たちなので、日本に興味があるという人もいます。その程度に思っていたのですが、アメリカで私がお話しした方々の多くが日本について、私が想像していたよりも知っていて、大変驚きました。例えば、私のホストファミリーの中で日本に行ったことがある人は4人(2つのホストファミリーを合わせて8人なのでなんと半分!)いて、日本語もたくさん知っていました。一番驚いたことは第二ホストファミリーのホストマザーが抹茶・茶筌・茶杓・棗を持っていたこと! 茶道を紹介しようとしたら出てきてくれたので、紹介しやすかったです。



<http://kaigai-matome.net>